

*「組織罰を実現する会」（以下、「組織罰の会」「会」の略称使用あり）の活動について随時アップします。

コロナ禍のため、予定していた講演会や街頭署名活動などは延期を余儀なくされていますが、公の場で活動できない今こそできることとして、下記の取り組みをしています。

1 「組織罰を実現する会」編のブックレット発刊（2021年4月下旬予定）

数年前から、勉強会や講演会などの会の活動で得られた知見を形のあるものにして、それをもとに活動をより強めようという合意の元に、ブックレットの出版を模索してきました。幸い、現代人文社様が出版をお引き受け下さり、このたび刊行の運びとなりました。

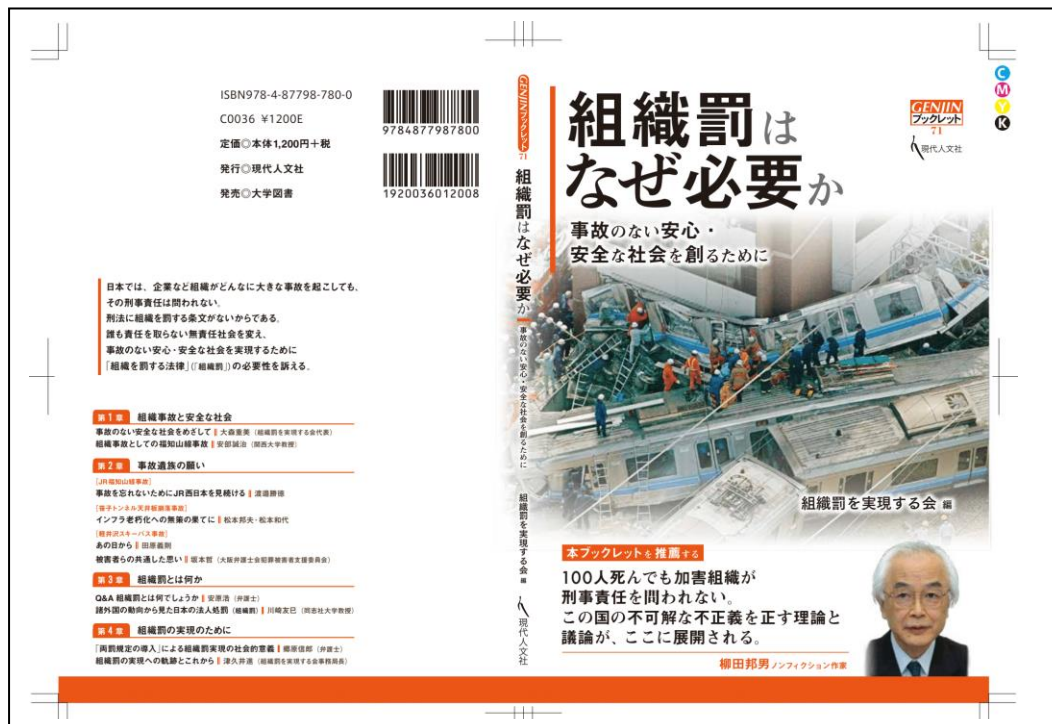
昨年後半から、遺族や弁護士、研究者の方々などに執筆をお願いして、本年初頭に原稿が集まり、数度の編集作業を経て4月下旬の発刊が決まりました。

会としては、この冊子を報道機関や役所、研究者の方々その他にお送りして、「組織罰」に対する認識を深めていただくことで、「組織罰」という概念の認知度を高めて、「組織罰」実現のためのステップにしようと思っています。

5月には販売も開始され、また、コロナが終わり、講演会や書名活動が再開できることになると、会場や街頭などで一般の方にもこの冊子を手にとりいただくことができます。

ニュースレターをご覧いただいた方々にもぜひこの冊子をお読みいただきたいと思えます。

下記に、冊子の表裏表紙（目次あり）を掲示しますので、ご覧下さい。



組織罰はなぜ必要か

事故のない安心・安全な社会を創るために

目次

はじめに……………大森重美

第1章 組織事故と安全な社会

事故のない安全な社会をめざして……………大森重美

組織事故としての福知山線事故……………安部誠治

第2章 事故遺族の願い

[JR 福知山線事故] 事故を忘れないために JR 西日本を見続ける……………渡邊勝徳

[笹子トンネル天井板崩落事故] インフラ老朽化への無策の果てに

……………松本邦夫・松本和代

[軽井沢スキーバス事故] あの日から……………田原義則

被害者らの共通した思い……………坂本哲

第3章 組織罰とは何か

Q&A 組織罰とは何でしょうか…………… 安原浩

諸外国の動向から見た日本の法人処罰（組織罰）……………川崎友巳

諸外国の法人処罰（組織罰）一覧

第4章 組織罰の実現のために

「両罰規定の導入」による組織罰実現の社会的意義……………郷原信郎

組織罰の実現への軌跡とこれから……………津久井進

おわりに……………松本邦夫

2 「組織罰を実現する会」コアメンバー会議を開催

表記の会議を Zoom 利用のオンラインで複数回行いました。内容は、主にブックレット刊行についての様々な打ち合わせです。最近の実施は4月3日でした。以降も適宜行っていく予定です。

3 今後の会の活動について

コロナによってペンディングされている会の活動については、前号ニュースレター-NO2をご覧ください。

(文責：松本)